

題 言

最近の橋梁工事寫眞圖集

日本最近の橋梁工事寫眞圖集とすれば、復興局以後のものを蒐集しても特色あるもの尠からず、到底工事畫報一冊に纏め得べくもない。本號には先づ工事の大小に關せず夫々特色ある工事を輯録する事とした。

アルバート・ルツペ橋の工事

地震國の日本に於ては直に應用する事は出来ないとしても、鐵筋混凝土工事の絶妙なるものとして佛國のアルバート・ルツペ橋は將に合理的工事の最高峯に立つたものである。徑間6百餘尺の輕快なる混凝土拱橋は、特に施工に於て學ぶ處が多い、我國の同業雜誌にも二三既に報道されてゐるが、工事の畫報として寫眞圖を詳報する事とした。

ハドソン橋の工事を視る

心膽を寒からしめる様なハドソンリバーブリッジ及びキルバンクル・ブリッジの施工振りは、本號の寫眞に於て愈々其工事の手際は冴えて見える。

總ては科學的研究の下に、合理的施工が進められ、無理もなく、無駄もなく油斷なもい。工事の急所は常に自他の經驗より悟るものである。本寫眞版は複寫であつて、稍鮮明を缺いてゐるが、一線一劃に就て精細な觀察をすれば得る處甚だ大なるものがある。わざわざニューヨーク市迄出掛けなくて此丈の工事を誌上に觀る事を得たのは、一に H. Burr 博士及び我國の那波光雄博士の好意に依るものである事を特筆感謝するものである。

大平洋岸に問題の大吊橋工事

將に起工せられんとする桑港のゴールデンゲート・ブリッジは徑間長 4,200 呎に達し、昨日迄世界第一を稱へられたハドソン・リバーブリッジを凌ぐ事實に 700 呎である。本橋の施工は其土地の條件が、

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 要塞地帯なる事 | 2. 地震地帯なる事 |
| 3. 潮流の急なる事 | 4. 航通船艦の頻繁なる事 |

等に於て設計、施工ともに我日本に於ても最も大なる注意を拂はねばならぬものである。

工事相談に就て

從來讀者から工事の實際の施設に關し、時々相談があり實用な問題に就ては之を誌上に發表してゐるのであるが、特に隧道工事は施工上に多種多様な問題が生じて來るのである。實際隧道工工程自然力に對する工學的研究要素を多分に含んでゐるものは他に少いのである。

工事畫報社も隧道工事に就ては幾多の經驗を有し、又新しく各種の經驗を得る事に努めてゐるが、尙ほ實地工事の問題はあくまで探究して行き度いと思ふ。随つて工事相談も此の種の問題の發表が多くなる事は止を得ない。